

目的 私共は数年間ラットに各種の茶葉浸出液(ウーロン茶・普洱茶・紅茶・煎茶・番茶・宝命茶)を、人が喫飲する濃度で給与し、脂質代謝に及ぼす影響を追究してきた。その結果、ウーロン茶の中に血中総コレステロール並びに中性脂肪の増加を抑制するものも見出されたが、茶葉浸出液の長期間給与観察の結果からも、脂質代謝に及ぼす作用は一律には有効ではないと考えられ、それらの結果については、本学会で報告してきた。今回は、脂質代謝を促進する効果があると言われている、後発酵茶でプーアル茶の仲間である「雲南沱茶」(中国、雲南省)について実験を行った。

方法 私共で生後8週令より予備飼育し、10週令からお茶給与実験に用いてきたwistar系ラットを、生後1ヶ年経過したものを昨年の本学会報告に引き続いて使用した。飼料は基本飼料(船橋農場, F2)を継続して与え、飲水は、水道水群(20匹)と雲南沱茶群(20匹)であり、いずれも自由摂取である。飼育期間は昨年3月末より4ヶ月間である。茶葉浸出液の調整は、茶葉4gを熱湯600mlで10分間浸出した。測定項目は、血清総コレステロール、中性脂肪(給与4ヶ月後に測定)並びに体重(週一回)と、一日おきに飼料摂取量と飲水量を計測した。

結果 雲南沱茶給与4ヶ月後の結果は、血清総コレステロール(129.1^{mg/dl})、中性脂肪(27.4^{mg/dl})共に水給与群との間に有意差は認められなかった。また、体重の変化並びに飼料摂取量、飲水量においても特に認められる差異はなかった。